



講演する竹永 昂平氏

熊本地名研究会の6月例会は22日、熊本市のパレアで開き、「南阿蘇村の中世と地名」と題して南阿蘇村教育委員会学芸員の竹永昂平氏が講演した。竹永氏は、南阿蘇村は中世の文献が非常に少なく、また開発行為が少ないこともあって発掘調査がなかなか進んでいないと前置きした後、これまでの調査成果をいっつままで説明。そのうえで、手掛かりとして地名を取り上げ

少ない史料 祇園遺跡中心に展開か

大宮司家が本拠構えた地

南阿蘇村の
竹永氏講演

熊本乃地名

ニースレター

発行者 熊本地名研究会
会長 木崎康弘

題字 松野国策 書

て村の歴史に迫り、さらには今後、石造物等の文化財調査を積極的に進めていきたいと述べた。講演の後、出席者から活発な質問が出され、盛況のうちに散会した。この日の出席者は18人だった。

竹永氏の講演要旨は次の通り。【報告者・藤野】

江戸期までの文書で南阿蘇村内の地名等が登場するのは『阿蘇家文書』、『吾妻鏡』、『大日本古文書』の3つだけだ。『阿蘇家文書』では、永延元年（987）に阿蘇郡の四方の境界を定め、東郷、西郷、南郷、北郷となつたとの説明。建久6年（1195）に、阿蘇太郎惟次に大宮司所領として南郷の中村・下野・世田村・荒木・上久木野・下久木野・大野・柏村・草部の10カ所を認めた。『吾妻鏡』では養和元年（1180）に平氏に対して挙兵した肥後勢力の中に「南郷大宮司維安」の名がある。『大日本古



祇園遺跡のある場所。現在は埋め戻されている。奥の森は八坂神社（祇園社）。

文書』では天授2年（1376）に古坊中の坊湯（湯の谷のことか）の記録がある。『長陽村史』

中世の遺跡について

埋蔵文化財は81件が確認されているが、このうち調査されている遺跡は4つある。まず、二本木前遺跡は、12世紀後期から13世紀後期ごろまで南郷大宮司館やその周辺、14世紀中期からそれ以後に光照寺周辺と、2期に分かれて発展期があった。濠から「南□□□□□」と書かれた木簡が出土しており、これは「南郷大宮司殿」と読めると推測されている。掘立柱建物10棟なども出土している。

次に祇園遺跡。12世紀から14世紀にかけての遺跡で、1棟の礎石建物と38棟の掘立柱建物を検出。中期に建物が増え、このころ大宮司館が移ってきたと思われる。14世紀後半には終末期を迎える。特筆すべきは、数々の陶磁器や土器、木器などが出ているなかで、元の時代に中国の河北地方で造られた「白地鉄絵鳥文壺」が出土し

地名研究会 告知板

8 月 行事日程

- ❖「例会」は例年お休みです。
- ❖勉強会 テキスト「続・日本の地名」
8月9日(土) 午後1時30分～パレア会議室5
※勉強会『テキスト』
現在の「続・日本の地名」は8月で終了。9月からは柳田國男著「地名の研究」を予定しています。

*地名研ブログでも
地名研の活動や関連
ニースを発信中



ていること。この壺は建物の中心部に埋納されていた。そのため祭祀に伴うものではないかと見られている。現在、この壺は国の重要文化財指定を答申中である。

杉の本遺跡は7世紀後期から13世紀中期までの集落遺跡。中世には1棟の緊穴住居と6棟の掘立柱建物が認められる。祇園遺跡の西方にあり、その外郭的な村だったと思われる。以上の3つの遺跡は旧白水村管内にあるもの。

4つ目は本田（ほんでん）遺跡で、白川の南側、旧久木野村にある。弥生から平安にかけての集落跡。平安期の建物14件のほか、磁器や鉄鍋、古銭などが出ているが、

（2 ページに続く）